

## 令和5年度 大野市地域医療協議会 会議概要

【日 時】 令和5年11月21日（火） 19：00～20：30

【場 所】 結とびあ201・202

【会長、副会長の選任】 会 長 高井委員（大野市医師会）

副会長 尾崎委員（大野市医師会）

### 【協議報告事項】

#### （1）休日急患診療所及び和泉診療所の診療状況について【資料No.1、2、3】

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

（委員）

・和泉診療所の予防接種の人数が受診者数に入っている。予防接種や健康診断は受診者数には入れないのでは。

（事務局）

・これまで含めていたため、統計的にみていただきたい。

（委員）

・引いた数が受診者数。その数が毎年受診者数だと思う。そういう統計の取り方ということで理解した。

（副会長）

・今後の課題として、医師の働き方改革で大学の医師も制限があるので、土曜日と日曜日の統計を分けた方がよい。

（事務局）

・そのように統計をとる。

#### （2）第8次福井県医療計画について【県資料】

○県地域医療課：資料に基づき説明

○主な意見等

（委員）

・患者の流出を防止しなければならない。そのためには対策を講じなければならないとあるが、奥越から流出しているパーセンテージはかなり高いものなのか。

(県)

- ・患者流出率が20%以上になると、国として高いという判断になる。
- ・奥越地域の患者流出率は42%であり、その多くは福井市内の医療機関を受診している状況。二次医療圏を維持するには、奥越地域内においてできるだけ多くの患者さんを受け入れるための対策を講じる必要がある。

(委員)

- ・半分程度は流出している理由は様々だと思うが、傾向はあるのか。患者が流出する理由は何か。

(県)

- ・様々な疾患があるものの、奥越で受けることができない高度医療があるので、県立病院など福井市内の病院で治療を受けてから地元に戻るケースが多い。
- ・大きな手術や専門的な治療を受けるための流出が大きい。

(委員)

- ・それは仕方ないのではないか。

(県)

- ・福井市内の医療機関における入院が長くなると、地域に戻ってこれなくなるため、急性期治療が終われば、地域の医療機関で回復期の治療を受けていただく、また、介護の受け皿を整備することを通じて、奥越に戻ってきたいと思ってもらい、地域包括ケアシステムというが、身近なところで出来るかぎりの医療・介護を提供していくことが重要になると考える。
- ・健診や外来など身近な医療は地元で受けていただく、かかりつけ医と福井の医療機関との役割分担・連携を進める、こういった取組みは引き続き県としても進めて行くので、地元自治体としても二次医療圏を維持するための取組みをお願いしたい。

(委員)

- ・資料の15ページから17ページに、5疾病・6事業・在宅医療の解決の方向性にも医療圏の設定が記載されているが、これはどういった意味か。

(県)

- ・5疾病・6事業・在宅医療については、がん、脳卒中、循環器疾患など対応できる医療資源が限られているので、医療圏を弾力的に設定してもよいという国の考え方がある。
- ・次期の県医療計画においては、地域で一般的な入院治療が完結することを目指すベースの二次医療圏は4医療圏と考えているが、各専門部会において疾病・事業ごとに医療圏を設定するかどうかを検討している。

(委員)

- ・大野には産婦人科がないので、妊娠したときは福井に通わなければならない。
- ・産科に関する医療資源を大きく充実させることは難しいかもしれないが、相談できる体制を構築するなど妊産婦の不安を取り除くサービスを充実してほしい。

(県)

- ・県内の産科医師は増加傾向。出生数の減少もあるが、県トータルで見れば分娩に関する医療需要には対応できている。
- ・様々な診療科がある中で、医学生がどの診療科を選ぶかというところもあり、地域で求められる診療科の医師を思うように確保できない面もあるが、今後も医師確保に取り組んでいく。

(会長)

- ・大野市は妊婦の具合が悪くなった時、優先することがあるのでは。

(事務局)

- ・妊婦は事前に登録すれば、救急車を優先している。

### (3) 熱中症対策について【資料No.4】

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

(委員)

- ・熱中症の死亡者が大野市は0人、中部縦貫自動車道の工事等がある中ですごいことだ。

(会長)

- ・非常に少ないのではないか。対応が早いのか。

(委員)

- ・皆さんがしっかり予防している結果ではないか。
- ・2022年は26人中で重症は1人、今年は28人搬送、重症は0人である。

(県)

- ・県全体で見ると、本県の救急車による病院への搬送時間は全国で5位以内である。3位になったこともある。
- ・搬送時間が短く済んでいることも要因の一つではないか。

(会長)

- ・学校の子供が問題になるが、学校へ熱中症関連の連絡がいくのか。職員が自発的に行うとかなど、どういう体制か。

(事務局)

- ・主に担当する課がそれぞれの所管課に連絡をする流れになると思うが、各施設等には所管課から迅速に連絡がいくことを想定している。

(委員)

- ・特別警戒情報の発表期間中は、クーリングシェルターを開放しなければならないという法律になるのでは。
- ・図書館や公民館は常時開いているが、それ以外に指定する場所はどこがあるのか

(事務局)

- ・検討段階であり、具体的なことは言えないが、結とぴあ、本庁舎、公民館など冷房施設が整っている施設で検討したいと考えている。

(委員)

- ・クーリングシェルターの公民館やショッピングセンターについては、現段階では未定である。
- ・開いていない場合もあり、必ずこの場所ということではない。
- ・この施設については決まっていないことに注意してほしい。

## 【その他】

(事務局)

- ・和泉診療所の歯科診療は11月末で廃止する。
- ・患者数が減少しており、人口減少と工事関係者の減少、中部縦貫自動車の開通による交通等を鑑みて決定した。